

夜間学校 ニュース

1989年 10月 6日
西成区萩之茶屋2-8-9
旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人・中国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を！

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

釜ヶ崎夜間学校

みんなでつくろう

みんなの 会館

三人よれば 何とかの 知恵

『あいりん取安』

ニセ印紙黙認？

当分の間

もう重竹相のスミ一つつくようなことは

十月一日から雇用保険の
印紙が新しいものになる
というハリ印紙が、16番窓口
の斜上に貼ってあった。し
かし、まだ実物をみているな
い。

三日の印紙で、手帳に貼
つてあるのを、仲間同士で
見せやいこしているのを後

からのぞいて見た、という
話。あるいは、M組の手帳は

ニ。えぬだろう！

師は、二日の午後、奈良の
郵便局で新しい印紙を買
たと言っていた。という話
は聞いたので、新しい印紙
が出回っているのは確から
しい。

だけど、一勢に、新しい
印紙に切り変えるというこ
とはできなかったようだ。

今回、印紙をかえる理由
はなぜだったのか。

窓口では判断できない、
よくできたニセ印紙が出回
っているからではなかった
のか。

だとすれば、一勢のりま
えしなれば、まだ当分は
ニセ印紙が通用することを
黙認するということになる
のではないか。
二人なことが許されてよ
いのか。

印紙の貼りまちがないで
事業主に問いあわせること
まで労働者に負担させてま
で不正受給を防ぐことにや
つきになつてきている取安は、
やはり弱い者いじめしている

仲間の死

本籍、住所、氏名不詳、
年齢42歳の男、身長162
センチ、中肉、面長、遺留
金品なし

右の者は、昭和60年11月
11日午前6時ごろ、西成区
萩之茶屋1-7-18森井立
ち呑み店東側路上にて発見
されたもので、同月10日午
後10時ごろ、同所において
死亡(死因不詳検査中)し
たものと思われる。

身柄引取人不明につき、
北斎場にて火葬に付したの
で心当たりの方は申し出て
ください。 西成区長(官報)

「好況」陰で結核猛威

あいらん地区 罹患率、平均の35倍

結核予防週間（今月二十四～三十日）に合わせ大阪府はこのほど「結核の現況」をまとめたが、それによると、昨年発病した市内の結核患者は二千八百十五人。「罹（り）患者発生数」は二〇六・四で、全国平均四四・三の二・四倍にのぼり、全国十一政令指定都市のワースト1。中でも、あいらん地区の結核患者は昨年未現在千五百六人。このうち新規発病患者は四百六十人で、罹患率は一五三・三と、全国平均の三十五倍。同地区の罹患率は六十年九八四・二、六十二年一〇四二・一、六十二年一三三六・八と年々高くなっており、特に中、高齢者に集中しているのが特徴。

市では、西成区太子一の市更生相談所三階の西成保健所分室で、月曜日から金曜日までの午後、無料検診を受け付け、別に毎月一回、同区萩之茶屋一の「愛隣総合センター」前に結核検診車を出して無料検診を実施している。

しかし、市環境保健局によると、受診者は年間ほぼ千八百人を維持しているが、精密検査が必要とされた人のうち同分室に足を運ぶのは八割とまり。さらに入院してもベッドでじっとしているのを嫌

い、治療途中で病院を抜け出すケースも多い。最近の労働需要の増大が、この傾向に拍車をかけているという。

大阪府結核サーベイランス委員会メンバーの大阪府立看護短大教授、山口亘さん（京大）は「あいらん地区の状況は、伝染病が社会的弱者に偏在化しつつあることを示している。重症になって初めて結核とわかる人が多いのも、この地区の特徴だ。民生、医療両面からの長期的な地域対策を講じないと、解決出来る問題ではない」と話している。

▲1989年9月27日毎日新聞(夕刊)

金ヶ崎に結核患者が多く、大阪市は対策苦悩しているなど、もっともらしいことを言っているようだが、市更相は結核菌を振り回しているものが相談に行っても、追いつかぬのではないかと、

必要なカロリー 自分で計算

運動量や年齢別に 簡易算出式を作成

身長五センチきまみになっていったら所要量をほじき出す「簡易」。「簡易算出式」の作成はものを改定し、個人の身長か「算出式」を作成して示している「世界で初めて」（同審議会）

結核にかかりやすいだけでなく、外食に頼る生活では、やはり栄養はかたよりがちなので、色々な病気がかかりやすい。かといって、食べればよいというものではない。釜の鉄々にとつては、カロリーの心配よりも、栄養素をうまく取っているかどうかの方が切実な問題だ。ドリンクは有効なのだろうか？

と、いい、一人々々異なったエネルギー所要量が得られることになり、飽食・運動不足時代にきめ細かく対応する目安になる。

栄養所要量は学校、病院、福祉施設などでの給食の献立や、保健婦の栄養指導の基準となるもので、四十四年に策定、五年ごとに改定されておられ、今回の第四次改定は平成二年度から七年度までの間、使用される。

エネルギー所要量簡易算出式

(Hは身長、単位cm)

生活活動強度	年齢	男性		女性	
I (軽い)	20~29	20.00	H-1150	15.50	H-636
	30~39	19.17	H-1054	15.00	H-611
	40~49	18.57	H-998	15.00	H-611
	50~59	20.00	H-1300	16.00	H-788
	60~69	18.21	H-1132	16.00	H-858
	70~79	15.48	H-838	13.09	H-516
80歳以上	12.62	H-525	14.55	H-818	
II (中程度)	20~29	22.74	H-1327	17.33	H-679
	30~39	20.83	H-1033	17.67	H-793
	40~49	20.83	H-1083	17.67	H-793
	50~59	22.86	H-1479	18.83	H-1002
	60~69	21.43	H-1427	18.50	H-1051
	70~79	17.74	H-1000	16.48	H-864
80歳以上	15.24	H-775	16.67	H-977	
III (やや重い)	20~29	25.95	H-1397	20.67	H-801
	30~39	25.83	H-1408	21.17	H-976
	40~49	25.00	H-1325	21.17	H-976
	50~59	27.38	H-1786	21.67	H-1078
	60~69	24.40	H-1532	22.00	H-1260
	IV (重い)	20~29	30.95	H-1747	24.33
30~39		30.00	H-1638	24.17	H-1056
40~49		29.17	H-1554	24.17	H-1056
50~59		31.90	H-2082	25.00	H-1217
60~69		28.21	H-1782	25.33	H-1449

※計算例

生活活動強度がIの男子、40歳、身長170cmの場合
 $18.57 \times 170 - 998 = 2158.9$

となり、約2159kcalが、理想的なエネルギー所要量となる。

健康な生活を送るために、エネルギーや栄養素を一日にどのくらいとったらいかがを示す「日本人の栄養所要量」について公衆衛生審議会（山口正義会長）は二十二日、第四次改定をまとめ戸井田厚相に答申した。今回の改定では、高齢化社会に際して、六十歳以上の年齢区分を、従来の十歳きざみから五歳きざみで表示。さらに、エネルギー所要量については、これまで

▲一九八九年九月二三日 毎日新聞